

令和3年度 山梨県立富士河口湖学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

山梨県立富士河口湖高等学校校長 小俣 義一

| | |
|--------------------------------------|---------------------------|
| 心のゆたかな人間を育てる。(社会で活躍できる、地域に貢献できる人づくり) | |
| 本年度の重点目標 | 1 確かな学力の保証と学習習慣の確立 |
| | 2 3年間を見通した進路指導の充実 |
| | 3 文武一体を自覚した部活動の活性化 |
| | 4 コミュニケーション能力の基盤となる言語力の向上 |
| 達成度 | A ほぼ達成できた。(8割以上) |
| | B 概ね達成できた。(6割以上) |
| | C 不十分である。(4割以上) |
| | D 達成できなかった。(4割以下) |

| | |
|----|--------------|
| 評価 | 4 良くできている。 |
| | 3 できている。 |
| | 2 あまりできていない。 |
| | 1 できていない。 |

| 自 己 評 価 | | | 年度末評価(2月9日現在) | | |
|---------|--------------------------|--|---------------|---|--|
| 番号 | 評価項目 | 本年度の重点目標 具体的方策 | 自己評価結果 | | |
| | | | 達成度 | 成果と次年度への課題・改善策 | |
| 1 | 確かな学力の保証と効果的な教育活動の実践 | ①主体的、対話的で深い学びを実現するための授業研究の推進、相互授業参観の促進 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒用コンピュータも配備され、教室に大型モニターが導入されたので、ICTの有効活用をさらに進め、生徒の学習活動がより高い結果へと結びつくよう工夫していきたい。 ・クラスシーによる家庭学習時間の記録なども有効活用しながら、生徒の家庭学習の習慣化や質の向上を図っているが、期待された効果がまだ見られないため、今後工夫を重ねて改善していきたい。 | |
| | | ②新学習指導要領の告示を受け新教育課程の検討と健康科学大学との連携授業の推進 | | | |
| | | ③学校における働き方改革を推進し、生徒に対して効果的な教育活動の実践 | | | |
| 2 | 3年間を見通した進路指導の充実 | ①個に応じた進路希望実現を目指した教育課程の編成と工夫 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・おぼろげな進路目標が明確になることが早ければ早いほど、実現の可能性が高くなると考えられる。進路指針で生徒の意識付けを狙うとともに、保護者の協力・信頼を得られた。 ・土曜講座は、学習機会の確保として賛同を得られていたが、教員には相当な負担感となり、自己評価アンケート結果では低評価になった。 | |
| | | ②土曜講座、各種課外の実施、進路関連行事の企画・運営とクラスシーの活用に向けた研究の推進 | | | |
| | | ③進路相談やカウンセリング、三者懇談の充実、個々に応じたキャリア教育の実践 | | | |
| 3 | 文武一体による全人教育を目標とする部活動の活性化 | ①文武一体を具現化するための生徒、教員の意識改革と努力 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の再拡大に伴う感染防止対策として、多くの生徒が部活動など、学校活動の様々な面で制約を受けることで、ストレスや鬱念感を増幅させ、落ち着いた気持ちで日常的な学校生活を送ることができない現状がある。個々の生徒を注意深く観察し、学校での言動に配慮しながら、気になる点を家庭と積極的に情報共有できる環境づくりをいっそう心掛きたい。 | |
| | | ②学習と部活動の両立に配慮した年間行事予定の編成 | | | |
| | | ③改廃も含めた適正な開設部数の検討、顧問配置への配慮と部活動の更なる活性化 | | | |
| 4 | コミュニケーション能力の基盤となる言語力の向上 | ①朝読書の充実や読書会(図書委員会主催)の実施による豊かな心と論理的思考力の育成 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間や体験活動の充実を図るための研修会等は時間的な制限などもあり、なかなか実施できない部分がある。その中で、2学期に実施したTeamsの研修会は多くの教員が参加して充実した研修会を実施することができ、その後の授業や総合的な探究の時間等に役立っている。 | |
| | | ②保護者、同窓会との連携を深めることによるKFP・KIPとしての活動の一層の充実 | | | |
| | | ③地域や関係機関と連携し、体験活動の充実を図ることによる思考力・判断力・表現力の育成 | | | |

| 学校関係者評価 | |
|----------------|---|
| 実施日(令和4年2月25日) | |
| 評価 | 意見・要望等 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・校長のリーダーシップのもと、全職員が共通理解を得て、積極的に研修を続け、大きな成果をあげている。 ・入試制度がどのような形に変わっているか不明なので何とも言えないが、どうしても入試を意識した授業づくりは必要である。文科省が求める授業改善が入試に結びついているのなら改善に取り組むべきであるが、そうでなければ無理をする必要はないのではないか。 ・ICT機器やオンライン動画の活用等、新しいものに取り組みされている姿勢は評価できる。ICT教育の推進は必要だが、何のための推進かという目的を共有しながら進めることが大切だと考察された。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・変化の激しい時代の中で、いずれ消えていく職業がある一方、新たに生まれてくる職業もあるはずである。キャリア教育の一面ではあると思うが、どの様な職業があるのか、できるだけ具体的にその職業(仕事)の意義も含め考えさせたい。 ・クラスあるいは学年の枠を越えて、生徒の能力(長所)を伸ばす小集団をいくつか組織して指導するのはどうか。 ・土曜講座も次年度は休止とのことだが、実行したからこそ得られた知見であり、負担を感じながらも取り組まれた教職員の姿勢は素晴らしい。形態を模索しながらも、外部との交流は引き続き行えるといいと感じた。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・河高を魅力のある高校にするためにはどうしたら良いかについて、生徒たちと一緒に考えてみる。保護者や地域の方々、中学校にも調査を依頼し、多くの人たちを巻き込んだ活動にできないか。 ・上位成績を目指す部活動から、生涯スポーツとしての部活動(先につなげる部活動)への転換を図る。無理のない部活動で心と体のバランスを取り、その結果、学習へも好影響が生じるのではないかと。 ・懸念事項として、教員定数減による教員一人一人への負担増が心配される。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの基礎である挨拶が徹底されており、素晴らしい。 ・コロナ禍においても、高い水準で進路選択ができて印象を受ける。見えない部分で手厚く指導している成果だと推察する。 ・職業体験を行い、単位として認めるなど、自分の将来を見据えること、地域(身近な)の職業を知ることを通して、一度県外などに出て再び地元への力となるような仕組みを考えていったらどうか。 |

※留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。